

第6回インターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション

質問への回答：総集編

6th Intercollegiate Negotiation Competition

The Collection of Questions and Answers

注：この質問への回答は問題の一部として扱われます。

Note: The answers shall be dealt as a part of the Problem.

○問題文全体について(General Questions)

(1)

Q：ネゴランドとアービトリアの公用語は同じですか？

A：はい。

Q：Are the official languages of Negoland and Arbitria the same?

A: Yes.

(2)

Q：審理において自社の請求自体を変更することはできるのですか。

A：できません。

Q: Can we amend the own claim at the hearing?

A: No.

(3)

Q：パラグラフ34までの事情は、ラウンドBにおいても考慮されるのですか。逆に、パラグラフ35以降及び秘密情報に記載された事情はラウンドAにおいても考慮されるのですか。

A：パラグラフ34までの事情をラウンドBにおいて考慮することは差し支えありません。ただし、別途ラウンドAの対象となっている論点については、ラウンドBでの交渉の対象とすることはできません。パラグラフ35以降及び秘密情報に記載された事情をラウンドAにおいて考慮することはできません。

Q: May information contained in paragraph 1-34 be taken into consideration in Round B? On the other hand, may information contained paragraph 35-41 and confidential informations be taken into consideration in Round A?

A: Information contained in paragraph 1-34 may be considered in Round B. Please

note that you are not allowed to negotiate on issues dealt in Round A. Information contained in paragraph 35-41 and confidential informations may not be considered in Round A.

(4)

Q : ネゴランドとアービトリアには時差がありますか。

A : ありません。

Q: Is there a time difference between Negoland and Arbitria?

A: No.

(5)

Q : レッド社とレッド商事の関係はどのようなものですか。

A : 社名が示すように、レッド社一族の会社であるということが一般に知られていません。

Q: What is the relationship between Red, Co. and Red Trading?

A: As their company names show, both companies are companies of the Red family.

(6)

Q : アービトリア国では、2007年時点、成長ホルモンを利用した牛肉製品については、その旨を表示しなければならないとする法令はありましたか？

A : はい。商品のパッケージにそのような表示を義務付ける法令がありました。

Q: In 2007, was there any law or regulation in Arbitria that orders companies to indicate if beef products contain hormone-enhanced beef?

A: Yes. There was the law that orders to show on the labeling of such on package of the products.

○パラグラフ 14 (Paragraph 14)

(7)

Q : パラグラフ 14 における牛肉のサンプル取引の際の牛肉はオット農場のものでしたのですか。

A : はい。

Q: In paragraph 14, was the beef of Otto Farm used for the sample transaction?

A: Yes.

○パラグラフ 17 (Paragraph 17)

(8)

Q : パラグラフ 17 で、「サンボ農場の話題が両社の間で出ることは一度もなかった」とありますが、具体的にはどのような意味ですか？

A : レッド社向けの輸出についてサンボ農場のものを利用することが話題として上ったことは、2007年4月のやりとり以前には、一度もなかった、という趣旨です。

Q: In paragraph 17, it is mentioned that “Sanbo Farm was never talked about during the discussions between the two companies.” Could you elaborate?

A: Blue and Red had never talked about the possibility to use the beef of Sanbo Farm for their transactions before the communications in April 2007.

○パラグラフ 18 (Paragraph 18)

(9)

Q : パラグラフ 18 における 2006年4月の面談について議事録は作成されたのですか。

A : はい。

Q: In Paragraph 18, were the minutes made for the meeting on April 2006?

A: Yes.

○パラグラフ 21 (Paragraph 21)

(10)

Q : パラグラフ 21 において、レッド社は 100 トンの注文がパープル社のためのものであることを知っていたのですか。

A : はい。ブルー社は、「この注文は当社の重要な顧客であるパープル社からのものである」と伝えました。

Q: In paragraph 21, did Red Co. know that 100 tons order was for Purple, Co.?

A: Yes. Blue informed Red saying “this order comes from our important customer, Purple, Co.”

○パラグラフ 22 (Paragraph 22)

(11)

Q : パラグラフ 22 で「レッド商事は相場の 2 割増しの価格」で購入するとしていますが、ネゴランド国の国内取引の相場と輸出取引(CIF ベース)の相場は同じに考えてよ

いのですか？

A : 本問題との関係では、ネゴランド国の国内取引の相場と輸出取引(CIF ベース)の相場は同じであると考えてください。

Q: In paragraph 22, Red Trading “would purchase beef at a price 20% higher than the prevailing market price.” Was the prevailing local market price and prevailing export market price (CIF terms) the same?

A: In relation to this problem, please consider they were the same.

(1 2)

Q : パラグラフ 22 において、レッド商事からの注文においては、成長ホルモン入り飼料で育てた牛肉を利用しないようにという要望はありましたか。

A : いいえ。ただし、最高級の牛肉という要望がありました。

Q: In paragraph 22, in the order from Red Trading, was there a request not to use the beef which is raised with feed containing growth hormones?

A: No, but Red Trading requested the first ranked beef.

○パラグラフ 2 5 (Paragraph 25)

(1 3)

Q : アップル氏はサンボ農場が成長ホルモン入り飼料を用いていることを知っていたのですか？

A : いいえ。知りませんでした。アップル氏がそのことを知ったのは6月30日でした。

Q: Did Mr. Apple know that Sanbo Farm use the feed containing growth hormone?

A: No. He first knew the fact on June 30.

○パラグラフ 2 6 (Paragraph 26)

(1 4)

Q : アービトリア国では成長ホルモンを含む飼料は今まで全く用いられていないのですか。

A : はい。

Q: In Arbitria, has any feed containing growth hormone been used?

A: No.

(1 5)

Q : パラグラフ 26 において、アービトリア国で選挙が行われたのは 3 月の何日ですか？

A : 3 月 30 日です。

Q: In paragraph 26, on what date was the election held?

A: On March 30.

(16)

Q : 政令の発効日はいつですか。

A : 4 月 19 日です。

Q: When did the ordinance come into effect?

A: On April 19.

(17)

Q : パラグラフ 26 で「グレープ氏からのメールはタイトルが長すぎるという理由で迷惑メールとしてオレンジ氏が使っているメール・ソフトで自動的に迷惑メールに振り分けられてしまっていた」とありますが、①タイトルは不当に長いものだったのですか。②過去にもそのような事態はあったのですか。③オレンジ氏のメール・ソフトの設定は妥当なものだったのですか。

A : ①タイトルは長いものでしたが、アービトリア国で最も標準的に用いられているメール・ソフトでは通常自動的に迷惑メールとして振り分けられるようなものではありませんでした。②ブルー社とレッド社の間では過去にそのような事態が一切なかったかどうかは分かりません。③オレンジ氏の利用していたメール・ソフトはネゴランド国で最も標準的に用いられているもので、オレンジ氏が利用していた設定も標準的なものでした。

Q: In paragraph 26, “this e-mail message from Mr. Grape was automatically stored into a folder for junk e-mail in the e-mail software used by Mr. Orange, due to the reason that the subject line was too long”. (1) Was the subject line unreasonably long? (2) Were there any similar events before this? (3) Was the setting of the e-mail software used by Mr. Orange adequate?

A: (1) The subject line was long, but it would not be automatically identified as junk e-mail by the software which is most popularly used in Arbitria. (2) It is unclear if there was any such event before this. (3) The e-mail software used by Mr. Orange is widely used in Negoland, and the setting by Mr. Orange was standard.

(18)

Q : オレンジ氏はアービトリア国の業界紙には目を通していなかったのですか。

A : はい。

Q: Did Mr. Orange read the industry journals in Arbitria?

A: No.

○パラグラフ 27 (Paragraph 27)

(19)

Q : パラグラフ 27 で、6月12日にグレープ氏は「直ちにオレンジ氏に連絡した」とありますが、その際、どのようなやり取りがなされたのですか？

A : その際のやりとりは、パラグラフ 28 に記載されています。

Q: In paragraph 27, Mr. Grape “immediately contacted Mr. Orange”. What was the content of the conversation at that time?

A: The content of the conversation is mentioned in paragraph 28.

○パラグラフ 28 (Paragraph 28)

(20)

Q : パラグラフ 28 で、グレープ氏は「顧客のパープル社に 70 万米ドルの損害賠償をしなければならない」としていますが、これは何故ですか。

A : ブルー社とパープル社との間の契約における損害賠償の予約の定めがそのように定めているからです。

Q: In paragraph 28, Mr. Grape said “we will need to pay damages of 700,000 US dollars.” What was the reason for such damages?

A: It is because the provision for liquidated damages in the contract between Blue and Purple stipulates as such.

(21)

Q : パラグラフ 28 において、レッド社は、引渡しが遅延した場合には遅延の期間に応じて 2 割引、3 割引といった割引をするというアービトリア国の取引慣行について知っていましたか。

A : いいえ。

Q: In paragraph 28, did Red know that trade custom in Arbitria to make discount of 20% , 30% depending on the length of delay, when the delivery of the good is delayed?

A: No.

(21)

Q : パラグラフ 28、29 で述べられているような納期が遅れた場合に割引をするという取引慣行はネゴランドにもあるのですか？

A : ありません。

Q: In Negoland, is there the trade custom as mentioned in paragraphs 28 and 29, that is, to discount the price for late delivery?

A: No.

(22)

Q : パラグラフ 28、29 における 6 月 12 日のオレンジ氏とグレープ氏の会話、パラグラフ 30 における 7 月 1 日のオレンジ氏とグレープ氏の会話はどのような方法で行われたのですか。

A : 電話です。

Q: In paragraphs 28 and 29, in which manner was the conversation between Mr. Orange and Mr. Grape on June 12 made? How about their conversation on July 1, in paragraph 30?

A: The two conversations were made on phone.

○パラグラフ 29 (Paragraph 29)

(23)

Q : オニク農場 (パラグラフ 29) は、「ネゴランド国農業省が最高級としている牛肉と認定している牛肉を生産している農場」(パラグラフ 17) の一つですか。

A : はい。

Q: Is Oniku Farm (para. 29) one of the 10 farms that produce the beef approved as the best quality by the Ministry of Agriculture of Negoland (para.17)?

A: Yes.

(24)

Q : パラグラフ 29 において、グレープ氏がさくら農場から代替品を調達できる目処がたったのはいつですか。

A : 6 月 14 日です。

Q: In paragraph 29, when did Mr. Grape find he could purchase the alternative product from Sakura Farm?

A: On June 14.

(25)

Q : パラグラフ 29 に示された割引率と損害額にはどのような関係があるのでしょうか？

A : 損害額は割引率その他の要因を総合的に考慮して算出されています。本問題との関係では、損害額を争うことはできません。

Q: In Paragraph 29, what is the relationship between the discount rate and the loss amount?

A: The amount of loss was calculated from the discount rate and other relevant factors. You may not dispute the loss amount in relation to this problem.

(26)

Q : パラグラフ 29 において、6 月 14 日時点ではオレンジ氏はオニク農場とどのようなやりとりをしていたのですか。

A : 6 月 14 日時点では、牛肉の供給が可能かどうか、オニク農場からの返事を待っている状況でした。

Q : In paragraph 29, what kind of communication had been made between Mr. Orange and Oniku Farm on June 14?

A: On June 14, Mr. Orange was waiting for the answer from Oniku Farm about the possibility to supply the beef.

(27)

Q : 6 月 13 日と 6 月 14 日に、レッド社とブルー社との間で、代替の牛肉について何かやりとりはなされたのですか。

A : いいえ。

Q: On June 13 and 14, was there any communication between Red and Blue on the alternative beef?

A: No.

(28)

Q : パラグラフ 29 において、さくら農場からの牛肉はいつブルー社に到着することになっていたのですか。

A : 6 月 29 日です。

Q: In paragraph 29, when was the beef from Sakura Farm expected to arrive at Blue, Inc.

A: On June 29.

(29)

Q: パラグラフ 29 において、ブルー社はさくら農場との契約を解除することはできたのでしょうか。

A: さくら農場との契約を解除した場合には 50 万米ドルの違約金を支払う必要がありました。

Q: In paragraph 29, was Blue Inc. able to cancel the contract with Sakura Farm?

A: Blue would have had to pay 500,000 US dollars as penalty if it had canceled the contract.

○パラグラフ 30 (Paragraph 30)

(30)

Q: アービトリア国の税関で輸入が禁止された牛肉の処理について、アービトリア国の法令上、ブルー社にはどのような選択肢があったのですか？

A: ①廃棄処分にすること (費用は 1 万米ドルです)、②仕向地あるいは他国に向けて船積みすること、③一時的に保税倉庫に保管すること、のいずれかです。

Q: Under Arbitria law, what options are available to Blue for the beef which is prohibited to import at the custom of Arbitria?

A: (1) To scrap it (it costs 10,000 US dollars), (2) to ship it to the port of loading or other countries, (3) to temporarily keep it in a bonded customs warehouse.

○パラグラフ 31 (Paragraph 31)

(31)

Q: ブルー社は、パラグラフ 31 における落雷をいつレッド社に伝えたのですか。

A: 7 月 6 日です。

Q: When did Blue inform Red of the lightning incident?

A: On July 6.

(32)

Q: パラグラフ 31 において、ブルー社からレッド社に対して、7 月 5 日に船積することに決めた旨の連絡がなされたとありますが、具体的にはどのようになされたのですか。

A: 7 月 5 日にグレープ氏がオレンジ氏に対して電子メールを送り、「ブルー社からグリーン社宛の牛肉の船積みは 7 月 5 日に行うことに決まりました。」と伝えました。これに対して、オレンジ氏からグレープ氏に対しては、「了解しました。その日で結構で

す。」との回答が電子メールでありました。

Q: In Paragraph 31, Blue informed Red that it decided to make the shipping on July 5. In which manner did Blue inform Red?

A: On July 5, Mr. Grape sent an e-mail to Mr. Orange saying, “Blue decided to make the shipping of the beef for Green, Co. on July 5” In response, Mr. Orange sent an e-mail to Mr. Grape saying “I see. Excellent.”

(33)

Q : パラグラフ 31 において、もしブルー社が 7 月 5 日に牛肉を船積みしていたならば、船はその日に出港したのですか。

A : はい。

Q: In paragraph 31, if Blue Inc. had shipped the beef on July 5, would the ship leave on the same day?

A: Yes.

(34)

Q : 保税倉庫から牛肉を搬出するためには誰のサインが必要なのですか。

A : ブルー社の権限者のサインが必要です。アービトリア国の法令上、レッド社には保税倉庫に対して牛肉の搬出を求める権利はありません。

Q: Whose signature is necessary to carry the beef out from the bonded warehouse?

A: The signature of the authorized person of Blue, Inc. is necessary. Red Co. has no authority to request the bonded warehouse to carry the beef out.

○パラグラフ 32 (Paragraph 32)

(35)

Q : パラグラフ 32 では、グリーン社への賠償の金額の正当性については争いはないとされていますが、これは、具体的にはどういう意味でしょうか。

A : レッド社もブルー社も、本件事実関係の下で、法的及びビジネス的観点から総合的に考慮すれば、結論としてグリーン社が 50 万米ドルを受領する権利があるという点では一致しているということを意味します。この結果、論点 3 では、50 万米ドルという数字の当否を論点とすることはできません。

Q: In paragraph 32, it is mentioned that there is no issue or disagreement concerning the reasonableness of the amount of the damages. Please elaborate.

A: It means that both Red and Blue don't dispute that Green should be entitled to be compensated 500,000 US dollars under the given circumstance from legal and

business point of views. As a result, in Issue 3 of Round A, the reasonableness of this amount could not be raised as an issue.

(36)

Q: レッド社は、グリーン社に対して損害賠償を支払う旨を事前にブルー社に伝えていたのですか。

A: はい。7月20日、レッド社からブルー社に対して、「牛肉をグリーン社に引き渡すことができなかったことにより、グリーン社に対して50万米ドルを損害賠償として支払わざるを得ないこととなった。この損害についてはレッド社に対して請求する予定であるので了解されたい」と通知しました。これに対してブルー社は、7月21日に「レッド社がグリーン社に対して損害賠償を支払うことは自由であるが、本件については当社には責任がないので、レッド社からの損害賠償に応じるつもりはない」と返答しました。

Q: Did Red, Co. inform Blue, Inc that it would pay damages to Green in advance?

A: Yes. On July 20, Red informed Blue, “Because the beef was not delivered to Green, we were forced to pay 500,000 US dollars to Green as damages. We are going to claim the reimbursement of this amount from you”. On July 21, Blue replied, “you are free to pay damages to Green at your own discretion. However we are not liable, for the loss, and we will not pay any amount to you.”

(37)

Q: パラグラフ32において、「倉庫で保管されている間の消失のリスクをカバーする保険も付保されていなかった」とありますが、このような場合に保険を付すかどうかについて取引慣習はないのですか。

A: ありません。

Q: In paragraph 32, it is said “there was no insurance to cover the risk of destruction by fire during storage in the bonded warehouse”. Is there any trade custom about whether such insurance is purchased or not in a similar situation?

A: No.

(38)

Q: パラグラフ32において、グリーン社との契約に関し、牛肉を引きわたさなかったこと以外にレッド社に何か債務不履行はあったのですか。

A: いいえ。

Q: In paragraph 32, in relation to the contract between Red Co. and Green Co., was there any breach of contract by Red Co. other than the fact that Red Co. did not

deliver the beef?

A: No.

(39)

Q: レッド社はグリーン社に対して牛肉が焼失したことをいつ知らせたのですか？

A: 7月7日です。

Q: When did Red inform Green Co. of the fact that the beef was destroyed?

A: On July 7.

(40)

Q: パラグラフ32において、レッド社はグリーン社に対して7月28日に実際に50万米ドルを支払ったのですか。

A: はい。

Q: In paragraph 32, did Red Co. pay 500,000 US dollars to Green, Co. on July 28?

A: Yes.

○パラグラフ38(Paragraph 38)

(41)

Q: ブルー社の水処理設備はどのようなものですか。

A: ブルー社の水処理設備は世界でも最も優れているとの評価を受けています。ブルー社の水処理設備は多様な用途に利用可能であり、あらゆるネゴランド国の企業について考えられる全ての用途に対応しています。

Q: How is the water treatment facility of Blue Inc.?

A: The water treatment facility of Blue is considered as the best in the world. The water treatment facility of Blue could be used in various fashions, and it is suitable to every situation of possible use by any Negoland companies.

○パラグラフ40(Paragraph 40)

(42)

Q: イエロー社の4名の役員以外の社員はすべてイエロー社によって直接採用された人ですか？

A: 5割がレッド社からの出向者、1割がブルー社からの出向者、残りがイエロー社によってネゴランドで採用された人です。

Q: Are employees of Yellow, Co. other than four directors directly employed by

Yellow?

A: 50% of employees are dispatched by Red, Co., 10% are seconded by Blue, Inc. and the rest are directly employed by Yellow in Negoland.

(43)

Q: 2003年にイエロー社が設立された後、イエロー社ために追加の資金は用いられたのですか?

A: はい。イエロー社の事業の拡大に伴い、施設の拡充や機械の購入のためレッド社とブルー社は、設立時に各50万米ドルを出資したのに加え、各100万米ドルを追加で出資しました。

Q: After Yellow, Co. was established in 2003, were additional funds used for Yellow?

A: Yes. Because of the expansion of the business of Yellow, Co., Red and Blue invested additional 1 million US dollars each in addition to 0.5 million US dollars originally invested at the establishment, to expand the facility and to purchase machines.

(44)

Q: イエロー社のコーポレート・ガバナンスはネゴランド国企業の通常のガバナンスに照らして劣るものなのでしょうか?

A: ネゴランド国企業としては標準的なものです。

Q: How is the corporate governance of Yellow evaluated in the light of the practice of average Negoland companies?

A: It is the standard one as an average Negoland company.

(45)

Q: 過去2年にイエロー社で不祥事を起こした社員の中に、ブルー社から出向してきた社員はいるのですか。

A: いいえ。過去2年の2件、レッド社から出向してきた社員とイエロー社で採用した社員によるものです。

Q: Did the employees dispatched by Blue, Inc. engage in any misconduct in Yellow, Co. in these two years?

A: No. The two incidents in these two years were caused by a person who was dispatched by Red and a person employed by Yellow.

(46)

Q: パラグラフ40における横領事件では、どのくらいの損害額があったのですか。

A : 2件とも、約1万ネゴ・ドルでした。

Q: In paragraph 40, how much losses were caused by embezzlements?

A: In both two cases, about 10,000 Nego dollars.

○別添3 (Attachment 3)

(47)

Q : レッド社のトール・レッド、タルヤ・レッド、ヤネス・レッドの関係はどのようなものですか？

A : 3人は親族です。

Q: What is the relationship between Toru Red, Taruya Red, and Yanesu Red of Red Co.?

A: They are relatives.

○別添6 (Attachment 6)

(48)

Q : イエロー社は、アービトリア国会社法 101 条 1 項 5 号の「子会社」に含まれるのですか。

A : はい。

Q: Is Yellow, Co. a “subsidiary” in the sense of Article 101 (1) ⑤ of the Company Law of Arbitria?

A: Yes.

○別添15 (Attachment 15)

(49)

Q : 別添15の契約において省略されている Article 5 から 10 に本問題との関係で考慮すべき内容は含まれているのでしょうか。

A : ありません。

Q: In the omitted Articles 5-10 of attachment 15, is there any content to be considered for this Problem?

A: No.

○別添16 (Attachment 16)

(50)

Q: 今後のとうもろこし相場の予測については、実際の世界の情報を利用してよいのですか？

A: はい。

Q: In relation to the projection of the corn price, may information in the real world be used?

A: Yes.

○別添17(Attachment 17)

(51)

Q: 別添17の2段目のイエロー社の利益は純利益ですか。これらの額はレッド社、ブルー社に配当されているのですか？

A: 2段目は純利益です。このうち、50%は内部に留保され、50%は1:1の割合でレッド社とブルー社に配当されています。

Q: Does the second line of Attachment 17 show the net profit of Yellow? Is the profit distributed to Red and Blue?

A: The second line shows the net profit. 50% of the net profit has been retained in Yellow, and 50% has been distributed as dividend to Red and Blue on 1:1 basis.